

## 《「原子力のあり方に関する有識者会議」の設置について》

当社は、原子力全般にわたる課題について、社外の有識者の方々から幅広くご意見やご助言をいただくことを目的に、「原子力のあり方に関する有識者会議」を設置しました。

有識者会議の委員には、原子力工学、コンプライアンス、防災・危機管理、放射線管理などの各分野で活躍されている方や原子力発電所の立地地域の方にご就任いただいております。委員の方々からのご意見等を活かして、さらに安全性の高い発電所の実現や透明性の高い企業風土の確立を目指してまいります。

### 「原子力のあり方に関する有識者会議」の委員の方々（五十音順）

- 浅利 靖（あさり やすし）氏（弘前大学大学院医学研究科教授）  
新野 良子（あらの よしこ）氏（株式会社新野屋専務取締役）  
北村 正晴（きたむら まさはる）氏（東北大学名誉教授／  
未来科学技術共同研究センター教授）  
高橋 正典（たかはし まさのり）氏（株式会社高政代表取締役社長／女川町商工会会長）  
中村 葉志生（なかむら はしお）氏（株式会社ハリーアンドカンパニー代表取締役）  
橋爪 秀利（はしづめ ひでとし）氏（東北大学大学院工学研究科教授）  
横山 速一（よこやま はやいち）氏（財団法人電力中央研究所常務理事）

### 第1回会議を女川原子力発電所で開催しました

11月8日、女川原子力発電所において、第1回有識者会議を開催しました。

女川原子力発電所の安全対策の実施状況や震災による被害状況などを確認いただき、その後、原子力発電所の安全対策や企業倫理などについて、各委員の方々よりご意見をいただきました。



▲東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえた安全対策の実施状況などを確認いただきました

## 《自治体による立入調査が実施されました》

10月28日、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえた緊急安全対策の実施状況などを確認するため、宮城県、女川町、石巻市による立入調査が実施されました。

調査では、緊急時に電源を確保するための大容量電源装置や地震で損傷した3号機の低圧タービンの補修状況などの現場確認や書類の確認が行われました。

今回の立入調査を踏まえ、自治体関係者より「安全対策は一つ一つ着実に実施されていると感じた」との評価や「災害に対応できるよう、しっかり備えておくべき」などの意見をいただきました。



▲緊急時に電源を確保するための大容量電源装置。平成23年度末までに配備完了予定



▲補修を進めている3号機低圧タービンの現場確認の様子

## 《女川原子力発電所の状況について》

東北地方太平洋沖地震により、女川原子力発電所全号機の原子炉が設計どおり自動停止し、安定した状態で安全に停止しています。

現在、全号機とも定期検査を実施しており、設備の点検や健全性確認などの復旧作業を進めています。地震等による主要設備への軽微な被害として、今回新たに1件の事象（「固体廃棄物貯蔵所コンクリート壁の剥離<sup>\*1</sup>」）が確認され、軽微な被害は全部で60件になりましたが、いずれも安全上問題となる事象ではなく、このうち24件が復旧しています。

また、女川原子力発電所では、設計上の想定を超える地震や津波などに対する総合的評価（ストレステスト<sup>\*2</sup>）の二次評価を10月27日に開始しました。

※1 低レベル放射性固体廃棄物を貯蔵している2つの建物の接続部分の内側でコンクリートの一部が浮いている状態が確認されましたが、必要な壁厚は確保されています。

※2 原子力安全・保安院からの指示に基づき、発電用原子炉施設において、設計上の想定を超える地震や津波等の外部事象に対してどこまで耐えられるかを評価するもので、定期検査中で原子炉の起動準備が整った発電用原子炉施設では一次評価を、また、全ての発電用原子炉施設では二次評価を実施することが求められています。



## 《免震構造を採用した事務新館完成》

発電所所員が事務業務などを行う「事務新館」が10月31日に完成しました。事務新館は免震構造を採用しており、大地震が発生した場合でも建物の被害を最小限に抑え、「緊急対策室」の機能を確保することができます。



▲完成した事務新館。免震構造を採用し、耐震性の向上を図っています

事務新館の完成により、災害時において、これまで以上に迅速で確実な初動対応が可能となります。

## 《東北電力図画コンクール表彰式を開催》

11月26日、石巻市において「第10回 東北電力図画コンクール」の表彰式を開催しました。

今年は過去最大の応募数だった昨年に迫る4,551点の応募作品の中から37点が入賞作品に選ばれ、入賞者の方に表彰状と副賞が贈られました。

いしやま しゅり  
最優秀賞に選ばれた東松島市立野蒜小学校3年生の石山 珠里さんは、「時間をかけて一生懸命描きました。最優秀賞になれてすごくうれしいです」と受賞を喜んでいました。



▲入賞者一人ひとりに賞状が手渡されました



▲最優秀賞に選ばれた石山珠里さんの作品  
「海で無くなったのは、海のなかが、作りだす。」

## 【発電所の運転状況（11月末現在）】

号機	運転状況	主な動き
1号機	定期検査中	第20回定期検査を実施しています
2号機	定期検査中	第11回定期検査を実施しています
3号機	定期検査中	第7回定期検査を実施しています

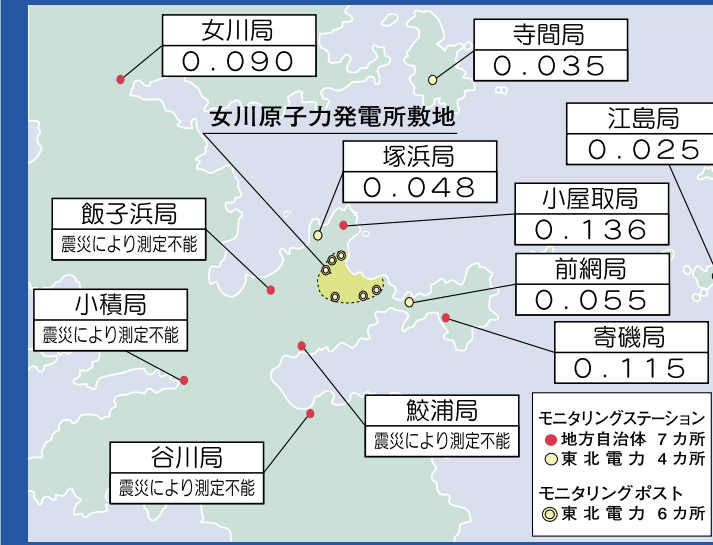
女川原子力PRセンターは、このたびの震災により休館しています。再開時期は「発電所だより」などでお知らせします。

## 《女川原子力発電所周辺の放射線》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

現在の測定値は、東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い、通常よりも若干高い値を示していますが、最大で0.13マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

### モニタリングステーションの測定状況（11/30現在）



単位：マイクロシーベルト/時

### モニタリングポストの最小値と最大値

測定日	最小値～最大値 (μSv/h)
3月11日	0.027～0.064
3月13日	1.8～21 (最大値) <sup>※3</sup>
4月1日	0.19～0.53
5月1日	0.10～0.25
6月1日	0.091～0.21
7月1日	0.086～0.21
8月1日	0.085～0.13
9月1日	0.084～0.13
10月1日	0.083～0.13
11月1日	0.080～0.12
11月30日	0.079～0.13

単位：マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日の値、至近8カ月の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて空気中の放射線物質の濃度や気象データを測定しています。

※3 最大値が測定されたのは約10分間です。この値は1時間で胸部レントゲン1回の値（50マイクロシーベルト）の約半分の値です。

Q 放射線の単位で「ミリシーベルト」や「マイクロシーベルト」などと耳にしますが、どの程度なのかがよく分かりません。

ミリ (m) は「千分の1」、マイクロ (μ) は「百万分の1」を表しています。放射線の人体への影響を表す単位である「シーベルト (Sv)」で考えると、「1シーベルト=1,000ミリシーベルト=1,000,000マイクロシーベルト」となります。

身近なお金の単位に置き換えてみると、1シーベルトを100万円とした場合、1ミリシーベルトは1,000円、1マイクロシーベルトは1円になります。



### 放射線 単位：シーベルト(Sv)

放射線	単位	換算	10 <sup>2</sup>
● 人体が受けた影響を表す単位			
● 平時に一般公衆に対する制限は年間1mSv (医療除く)			
ミリシーベルト	mSv	千分の1 (0.001)	10 <sup>3</sup>
マイクロシーベルト	μSv	百万分の1 (0.000001)	10 <sup>6</sup>
ナノシーベルト	nSv	十億分の1 (0.000000001)	10 <sup>9</sup>

### 放射能 単位：ベクレル(Bq)

放射能	単位	換算	10 <sup>2</sup>
● 放射性物質から放射線を出す能力の単位			
● 放射性物質から1秒間に1回放射線を出すのが1ベクレル			
テラベクレル	TBq	兆 (1,000,000,000,000)	10 <sup>12</sup>
ギガベクレル	GBq	十億 (1,000,000,000)	10 <sup>9</sup>
メガベクレル	MBq	百万 (1,000,000)	10 <sup>6</sup>